

ブラッセル日本人学校  
校長 岡田 真治ブラッセル日本人学校における新型コロナウイルス感染症への対応について  
(第十四報)

向寒の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

11月25日に公衆衛生省による記者会見がおこなわれ、このところ心配な状況であった新型コロナウイルス感染第二波が急速かつ持続的に減退している等の嬉しい情報がありました。しかしながら引き続き感染者数や入院者数は非常に多く、感染者数の劇的な減少と病院システムの負担軽減のため今の努力を維持しなければならないとの見方も示されました。

様々な活動制限が実施された後、人々の移動は急激に減りましたが、万聖節(Toussaint)の休み明け以降、学校や経済活動が再開し人々の移動が増えつつあります。移動と接触が、そして感染とは関連しているため、引き続き注意が必要であるとのこと。

前回のブラッセル日本人学校における新型コロナウイルス感染症対応について(第十三報)の発出は10月20日でした。今回は、ベルギー政府当局の発表の変更点に係る確認事項をお知らせします。

本校において、対面授業が維持できておりますのは、保護者の皆様のご理解とご協力あってこそと思っております。また、これまで通り結果として最大限の対面授業の維持を考え方針を示して参ります。

また、在ベルギー日本国大使館をはじめとした関係機関と情報連携を密にさせていただいておりますが、それによると当地においても日本人の感染例は重篤な症状例も含め少なからず発生しているとのことであり、日本人は感染しにくいのではないかと楽観するのは危険であるとの認識をもっております。ご理解とご協力を宜しくお願い致します。

これからも、ブラッセル日本人学校の関係者として矜持をもって落ち着いて行動していきましょう。

## 記

## 1 今回の変更点に係る本校の取組について

## (1) ベルギー政府当局発表の変更点

○本人以外の家族が赤地域から帰国した場合

PLF(パッセンジャー・ロケーター・フォーム)の運用に関する取扱いについて、政府当局が示した新ルールでは、オンラインでPLFを送信して24時間以内にSMSが届かなかった場合は、PCR検査と自宅待機は必要ないとされました。

## (2) 変更点に伴う本校の方針

しかしながら本校は様々な企業の子弟が通学しています。赤地域からベルギーへ帰る保護者が、PCR検査を受けず自宅待機が必要になると、感染拡大の可能性を最小化する本校の方針に反します。

同居する家族が感染していることに気づかず、濃厚接触者である児童生徒が登校を続けていたら、知らずに学校において感染を広める可能性を否定できません。クラスター発生ともなれば、コンタクトトレーシングも広範囲となり学校を閉じてオンライン授業を行う期間が長期化しかねないことになります。

本校ではこれまでどおり、本人以外の家族が赤地域から帰国した場合、本人は5日間の出席停止とします。(週休日を含めて7日間)。ただし当該家族がPCR検査を受けて陰性であった場合は、この限りではありません。また、7日間当該保護者やご家族、本人に症状が出なかった場合は登校できます。(濃厚接触者にPCR検査陽性者がいた場合は、再度PCR検査を受け陰性となるか医師の判断が必要となる点はこれまでと変わりません)

## 2 新たな変更点について

新しい検査戦略として、迅速抗原検査があります。しかし現状ではPCR検査に比べて検査の信頼性は明らかに低いとのことです。また、迅速抗原検査とは別に唾液検査がありますが、この検査は繰り返し実施できる一定の利点があり、特に子供に適しているとされています。

医療崩壊の防止を視野に新しい検査戦略が考えられています。今後とも様々な変更点に対応して参りますが、学校における感染可能性を最小化しつつ現実的な対応をおこなって参りますので、ご理解とご協力を宜しくお願い致します。

## 3 本校の方針策定に係る基本的な考え方

学級閉鎖や学校閉鎖について、または本校における新型コロナウイルス感染症への対策についてはブラッセル日本人学校における新型コロナウイルス感染症対応について(第十三報)をご確認ください。ベルギー政府当局の方針も変わっていきます。本校では結果として対面授業を長期間維持するため、現地校に比べると厳しい措置となっております。ご理解とご協力を宜しくお願い致します。

本校関係者から新型コロナウイルス感染症をださない努力を皆で協力し取り組んでおりますが、万が一感染した場合は仕方ないことです。その時はお互いに助け合い励まし合う。それが日本人学校の成員として当たり前のことと思っております。必ず学校への連絡をお願い致します。学校は在ベルギー日本国大使館と文部科学省への連絡を行います。

先の見通せない不安な状況が続きます。「励まし合い、高め合い、志し高く」の精神で乗り切って参りましょう。

○ この件に関してご不明な点は、担当までご連絡ください。

担当 黒川 昌彦 矢野千恵子 電話 日本人学校(02)672-1038